

# 子どもの虐待やDVにより

## 傷つく脳と回復へのアプローチ

「虐待」と聞くとメディアなどで取り上げられるような《事件性》のあるものばかりを思い浮かべるかもしれませんが、日常の中に存在する「不適切なかかわり」によっても起き得ます。言葉による脅し、威嚇、罵倒あるいは無視、放っておくなどの行為、子供の前での激しい夫婦喧嘩などがあげられます。それによる子供の脳の発達や脳への影響、そして回復に向けて何が必要なのか、をお話いただきます。



福井大学子どものこころの  
発達研究センター 教授  
友田 明美 氏

### 【講演要旨】

小児期のマルトリートメント(不適切な養育・子どもの虐待)経験は高頻度に精神疾患の発症を招き、脳の変化を伴うことがわかってきた。さらに反応性アタッチメント障害(愛着障害)を持つ青少年たちには脳の線条体におけるドーパミン機能異常が明らかになってきた。不適切な養育体験と子どもの依存リスクが脳科学的にも密接に関連している可能性が示唆される。

【講師紹介】1987年、熊本大学医学部卒業。医学博士。同大学准教授を経て、2011年6月より福井大学子どものこころの発達研究センター教授。同大学医学部附属病院子どものこころ診療部部長兼任。2009～2011年、および2017年より日米科学技術協力事業・「脳研究」分野グループ共同研究日本側代表者を務める。2017年8月にNHK出版より最新著作「子どもの脳を傷つける親たち」を出版。

と き **10月29日(日) 午後2時～4時**

ところ **名古屋ATビル2階 名古屋サンスカイルーム E室**

名古屋市中区錦1-18-22 Tel:052-201-3344(地図裏面参照)

◆アクセス◆ 地下鉄「伏見」駅8番出口西へ徒歩5分

申込み **会場規模の関係で、事前にお申込みいただくと幸いです。**

また、事前のお申込みなしでのご参加も承ります。  
お申込みの際は裏面用紙または電話、E-mailにて  
保険医協会へお申込みください。

参加費  
無料